

平成28年度 学校評価表（自己評価・学校関係者評価・第三者評価）

白樺学園高等学校（全日制普通科）

基本方針	<学園訓>「公徳実践」:人として正しい考えを身につけ、人々のために尽くし、もって社会の発展に貢献する。
教育目標	1. 確かな学力と感性豊かな心、強い体を持つ生徒の育成。 2. 社会の変化に対応し、たくましく生き抜く精神力を備えた生徒の育成。 3. 失敗を怖れず、何事にもチャレンジする意欲を持った生徒の育成。 4. 真の文武両道を目指す生徒の育成。 5. 明るく挨拶の出来る生徒、「ありがとう」と感謝の気持ちを素直に伝えられる生徒の育成。

平成28年度 学校経営方針	
○信頼回復を目指し、全教職員が職務に当たる。また生徒はもとより、保護者ならびに地域の期待に最大限応える学校にしていく。	
○本校の卒業生が、実社会で活躍し、地域から良い人材を送り出してくれたとの高い評価を得ることが出来る教育活動を行っていく。	
○本校の特徴である「進学・教養コース」及び「体育コース」の各カリキュラムと、ICTを活用した授業や「学び直し」の教育など、学習指導をはじめ生活指導・進路指導・部活指導全般に親切・丁寧な指導を徹底し、生徒の確かな成長と成果を形として表していく。	

達成度	
十分に達成	4
概ね達成	3
やや不十分	2
不十分	1

自己評価					学校関係者評価				
分野	領域	評価項目	具体的方策	H27	H28	次年度への課題	H27	H28	意見・要望
学校運営	校務運営	1 学校運営方針の共通理解と協力的態勢の形成・実践。	校務運営委員会・各分掌・教科・学年会議は、目的を明確にして実施する。情報共有（ペーパー化）と「チーム白樺」の組織力アップ。	2.6	3.1	●情報共有は比較的できている。●分掌や教科等必ず会議を実施することが大切である。盲点やすべき事が見える。●白樺の武器を明確にする事が必要。	3.3	3.3	●低学力層の受け皿としても、最低限の学力向上とともにそれ以外の大切なもの(掃除、整理整頓)を身につけて欲しい。
	教員体制	2 教員の意識改革・サービスの遵守・適切な教員配置・実践的指導力の向上。	信頼回復に向け、教員の服務規程遵守・職務意識の高揚を研修会や講習会等で図る。	2.0	2.9	●当初発生した事件が徐々に風化しつつある事が問題。●体裁は良いと思う。教員の職務意識に差があるのと、深いところまでの議論が不足している。	2.3	2.8	●特に不満なし
	学校改革	3 学校評価におけるPDCAマネジメントサイクルの機能化と情報公開。	自己評価・関係者評価を実施し、新たに第三者評価を加え、課題を確認し、評価結果を公開し、次年度へつなぐ。	2.8	3.3	●自己評価を含め、継続することが大切であり、評価を次年度に生かさなくては意味をなさない。●教員全体がPDCAサイクルを意識しながら取り組む事が必要である。	3.0	3.1	●学校評価委員会での話し合いで多くのことが理解できる。続けて欲しい。
学習指導	授業方法	4 授業方法の工夫・改善による理解できる授業の展開。生徒達が主体的・対話的に学ぶ授業の展開。	学年教科会議や成績会議による相互評価、研修・研究を推進する。AL型授業を積極的に取り入れ、意欲と理解度の向上を図る。	2.5	3.0	●ICTの導入も有り、大きく変化している。●研修してきたことを今後どう活用するのか、更に検討が必要である。●セミナーの更なる充実とWi-Fiの設備が不可欠。	2.5	2.6	●特に不満なし
	基礎学力	5 基礎学力の定着を重視し、到達度の低い生徒に対する適切な取り組みを行う。	クラス分析・生徒個々の掌握・ICT機器を活用した教育の推進。わかる喜びを与え、やる気を醸成。	2.2	2.7	●ALグループによる「学び合い」と放課後の学習指導の効果が出ているので、継続・推進したい。●家庭学習の不足と基礎力診断テスト実施後の具体的方策が必要。	2.5	2.6	●特に不満なし
進路指導	調査・面談	6 進路希望調査の実施、個人面談・三者面談による生徒理解と分析。	担任・進路担当により、希望調査を踏まえた面談で進路対策指導を行う。	3.0	2.8	●今以上にひとり一人に目を向けた指導が必要。●三者面談は時期を決めて全クラスで実施すべきである。●安易な進路決定をさせない取り組み。	3.2	3.5	●特に不満なし
	進路分析	7 就職先・進学先についての情報の蓄積と共有。	企業訪問・大学訪問・受験報告等の情報分析を行い学年単位で情報を共有する。	3.0	2.8	●人生に大きな影響を与えるので、適切な対応が必要。●進路指導は1年次から行って行くべき。3年生から2年生へそして全体への情報共有が不足しているように思われる。	3.0	3.3	●進路の情報をホームページに載せてください。(卒業生の進路先や活躍を発信してほしい。)
	職業観育成	8 生徒の職業観・進路意識の育成。	各種セミナー、講習、インターンシップ等の取組の量的・質的向上を図る。	2.9	2.8	●就職者向けの取り組みが少なかったように思う。●全体的には取り組みは良くなっているが、生徒の力となっていけていない事が残念である。	2.8	3.1	●特に不満なし
	推進力の強化	9 3年間を見据えた進路計画の設定と実施。推進力を発揮し各学年をリード。	学年団との連携を密にし、必要な情報提供を行い、学年をリードする。	2.8	3.4	●模擬試験を通して、現状の自分の位置、学力状況の把握をした上で、進路実現への計画や取り組みが大切であることを理解させる必要がある。	3.0	2.9	●特に不満なし
行事の充実	生徒会行事	10 自発的、自治的な組織活動の指導。	執行部とHRの連携、HR活動の活性化・仲間作りに発展する行事の取組みを行う。	2.5	2.9	●行事時だけではなく、普段の生活の身近な問題等への呼びかけがあっても良いと思う。●他校との交流など活発に活動していた。次年度も継続を。	3.3	3.5	●特に不満なし
	学校行事	11 愛校心・道徳心・社会性・公共性・安全性等を育む行事づくり。	目的・狙いに対して適切な手立てや工夫をこらした行事を追求する。	2.7	2.9	●全校応援・全校集会の内容工夫が必要である。●体育コースと進学・教養コースとの目的意識の差が見られる。担任の温度差も含め改善が必要。	3.7	3.5	●特に不満なし

自己評価						学校関係者評価				
分野	領域	評価項目	具体的方策	H27	H28	次年度への課題	H27	H28	意見・要望	
いじめ防止対策	方針の立案	12	学校としていじめに対応する方針の作成	いじめ防止対策のための方針を作成し、それを職員室及び生徒・父母に周知する。	3.2	3.2	●HPIには掲載されているが、生徒・保護者へのまだまだ周知不足と思われる。●日頃の観察、保護者との連携が大切である。●良いと思う。	3.3	3.8	●不満なし、継続を。
	防止対策の組織化	13	いじめ防止のための対策と早期発見・早期解決	いじめに対する方針の作成や防止対策を担う組織(防止対策委員会)を機能的に運営する。いじめの定義と認知への共通理解。	3.2	2.7	●アンケートが有効活用されていた。継続して行きたい。●いじめに対して教員全体が毅然とした対応を更にして行きたい。●重大事案になる前に防止している部分はあるが、目に見えない所で発生しているかもしれないという意識を持っていることが大切である。	3.2	3.5	●同上
	防止対策	14	いじめ防止対策委員会を中心に、防止のための調査や対策を検討する。	具体的な防止対策の動きや定期的ないじめの調査を実施する。	3.1	3.1	●アンケート調査は効果がある。早期発見、指導ならびに早期解決につながった。●効果的な防止策を検討していく必要がある。	3.2	3.4	●同上
生徒指導	指導体制	15	全教員が方針のもとに、一貫性を持った指導体制の構築。	生活指導部通信の発行と呼びかけ(他項目も同じ)、全教員での月毎の玄関指導・駐輪場指導。学年団の組織力と一貫した指導。	2.5	2.4	●今年度は指導部からの発信が少なかった。●もっと協調性と共通理解が必要である。●担任と指導部との連携と協力して解決しようとする体制が不十分であった。	2.7	2.8	●前年度と比較すると改善が見られた、継続を。
	規範意識	16	実社会で通用する人間性の教育。挨拶の励行と、場面に応じた正しい言葉遣いの指導。	全教員による日常的な生徒指導。校内・外生活での問題行動を防止するための啓蒙。	2.3	2.4	●時間や言葉の使い方など、教員も少し意識すべきである。●注意しない教員が基準にならないように、全教員の意思統一が必要。●問題行動を起こす生徒は明らかに減少した。	2.5	2.6	●特に不満なし
	生活指導	17	校則に基づいた頭髪指導、服装指導、集団への帰属意識。	毎月の全校集会での頭髪服装検査へ向けての事前指導と事後指導の実施。	2.9	3.1	●特定の生徒の問題行動はあったが、全体的には減少している。●SNSによる問題に注意が必要。●全校集会時だけではなく、日常から頭髪違反者に直させる仕組みが必要。	2.8	3.1	●頭髪検査の内容がよくわからない。はっきりと統一を。
	安全指導①	18	登下校時の自転車運転マナーと盗難防止。ネット関連・薬物等の事故未然防止のための啓蒙。	交通安全指導、自転車の2重施錠の指導。青少年問題に関する特別講演の実施。	2.6	2.7	●学年、学校全体に啓蒙するイベントが少なかった。●毎朝、登校指導を実施した方が良い。●自転車事故の件数が多かった。放置自転車と車との接触事故を含めた安全指導が更に必要である。	2.5	3.0	●特に不満なし
	安全指導②	19	教育相談室、家庭との連携、外郭団体との連携、研修。	学校カウンセラーの生徒支援。家庭連絡・訪問の実施。高生連・生指連等との連携・研修参加。	2.9	3.0	●不登校の生徒に対する対応は各担任が頑張っていた。●教育相談員の存在も大きく、生徒を支えてくれている。●特別支援教育委員会を設置すべきである。	2.8	3.0	●特に不満なし
環境施設	保健・美化	20	学校の美化・衛生面の充実と生徒の健康。省エネ・エコの取組と生徒指導。	厚生部・生徒会厚生委員会・PTA施設部を中心に、HR単位での美化・衛生・エコに取り組む。	2.5	2.8	●不十分な点はあるが、ゴミの分別は良くなってきている。●教室の乱雑さが目立った。生徒・教員の教室美化への意識づけが必要。●生徒会厚生委員の目立った活動が必要。	2.8	3.3	●校内、階段が汚い。掃除を身につける。
	施設・設備	21	学習環境の充実・施設・設備の点検・補充。学校バス路線拡充。	障害者への合理的配慮がなされた設備と環境づくり。分掌・教科・担任での点検を行うと共に、生徒への公共心を養う。学校バス路線拡充による効果と影響力。	2.6	3.2	●学校バス路線拡充、部活下校バスが生徒に好評だった。●乗車マナーの点では添乗指導も含め、改善が必要。●市、介護業者との連携も含め、学校としての対応は多くの課題がある。	3.3	3.3	●特別支援の必要な生徒が入りやすい環境作りをもっと期待する。●バス運転手の安全意識向上に今以上に期待したい。
地域との連携	学校開放	22	本校の校舎施設を地域に開放し、地域貢献に努める。	3年計画リニューアルに伴い、トレーニング室をはじめ、体育館・グラウンドの運動施設、特別教室など依頼に応じて開放する。	3.4	3.4	●学校施設を管内のスポーツ少年団が使用しており、地域貢献をしている。●ホールに今後も情報発信を継続する。●災害時に避難場所として開放しても良いのでは。●一般開放の仕方が課題である。	3.8	3.6	●地域への情報の仕方や開放内容の検討が必要と思われる。
	連携・協力	23	地域の教育行政、各種文化団体、ボランティア団体等との協力・連携。	芽室町・帯広市の教育行政や、地域の要請に対して可能なものは協力的に連携を図る。	3.2	3.3	●台風災害時の野球部のボランティア活動が話題になった。●吹奏楽部を中心に芽室町との繋がりを大切にしている。	3.7	3.6	●新たな試みが見られた、今後も更なる充実に期待したい。
	情報公開	24	本校の教育実践や成果をHPや広報誌等で積極的に発信する。	本校ホームページ・学園便り・PTA便り・体文ニュース・各分掌からの通信の内容充実。	3.6	3.3	●HPは頻繁に更新されており、定期購読者も多い。●広報誌は発行の目的の明確さを含め見直しが必要。	3.7	3.8	●Classiiにログインできない。(締め切りのあるプリントはメール登録で送信してもらえないか。)
総体評価	学校教育目標	25	全ての生徒に親切的な教育、楽しく魅力ある学校生活を実現する。	教育目標を達成すべく、教職員がそれぞれの持ち場で工夫・努力する。	2.8	3.1	●国語科の小論文指導は親切丁寧である。●時間的制約の中、各教員は努力しているが、なかなかクリエイティブな仕事になっていない現状がある。●人員増が必要である。	3.0	3.1	●特に不満なし
	学校評価	26	継続的な学校改革の推進を図る。	現状から将来へ向け、重点目標の検討、適切な評価項目の選定を行い全教員で取り組む。	2.7	3.0	●2020年の学習指導要領改訂に伴った変革、大学入試改革にいち早く対応できるように情報収集と計画的な選定そして教員の意識改革が必要である。	3.0	3.1	●学校評価アンケート回収率が87%と上昇した事は良かった。100%を追求してほしい。

平均 2.8 3.0

平均 3.0 3.2

学校評価アンケート結果(生徒・保護者)及び自己評価委員会のまとめ	
<p>学校評価を取り組んで4年目になる。保護者からのアンケートの回収率は86%で、昨年と比較するとかなり上昇した。(H27は68%) アンケートの項目で高い評価を得ている、いじめ防止対策、生活指導(頭髪・服装)、環境設備(ICT機器・トレーニング室)、HPについては今後も高い評価を継続できるように取り組んでいきたい。逆に低い評価となっている丁寧な学習指導、ICT機器の活用、AL型授業の実践、生活指導(言葉遣い・規則やモラルを遵守する指導)は特に生徒からの評価が低く、真摯に受け止め生徒・保護者が満足のいく学校生活を送る事ができるよう、学級経営・教科指導等に反映させて行かなくてはならない。意見・要望は大変貴重な内容であり、本校の地域からの信頼と発展のためのものと受け止め、学校改革を進めていきたい。以下に重点項目を上げ、改革の方向性を示す。</p>	
<p>【学習指導:授業方法】</p> <p>・ICTを有効活用した教育とAL型授業の積極的な実践による学び直し学習と基礎学力の定着と丁寧で理解できる授業。</p>	<p>ICT機器の有効活用・AL型授業の実践・丁寧で理解できる授業に関して、評価にクラスや教科担任によってバラツキがあり、その事こそ問題と受け止めるべきであり、教員の指導力も問われる。教科会議での検討・研究、研修会への積極的な参加等で指導力を向上させ、生徒に解る喜びや学び事の楽しさや意欲を与えながら基礎学力の定着と学力向上につながる学習指導法の研修に努め実践して行く。</p>
<p>【いじめ防止対策:防止対策の組織化】</p> <p>・いじめ防止のための対策と早期発見・早期解決のための取り組みの組織化。</p>	<p>本年度はいじめアンケート調査の定期的な実施や「いじめ認知」に関する聞き取りや調査、その後の指導において早期発見・早期解決につながっていた。生徒が安心・安全に学校生活をおくるためにも、今後の課題として具体的な防止策の検討と多くの目で防止するためにも組織化が急がれる。</p>
<p>【学校運営:教員体制】</p> <p>・地域から信頼される学校づくりとチーム白樺の組織力アップ!</p>	<p>教員の活動は人間の心身の発達にかかわるものであり、生徒の人格形成に大きな影響を及ぼすものであることから、生徒・保護者の信頼を裏切るような行為は厳に慎むこと。分掌や学年団との連携、情報の共有を心がけ諸問題の未然防止、早期発見、早期解決に協調性をもって臨む。進路確定100%を目指した日常的な指導や取り組みを実践して行く。</p>
<p>※新年度の学級経営や教科指導ならびに部活指導に学校評価を反映させるよう、お願い致します!</p>	
<p>※前年度の「教員研修の充実」と「LHRの計画的な有効活用(生徒会行事・学校行事充実のため)も継続して取り組みます!</p>	

学校関係者評価委員会のまとめ	
<p>【学校運営:教員体制】</p> <p>・各担任の意識改革</p>	<p>保護者からの厳しいご意見を踏まえ、教員1人1人が改善に向け努力してほしい。また、アンケート回収率が高いクラスと低いクラスがあるが、その結果がそのままクラス担任の学級経営に反映されているように感じられる。全教員が生徒のために職務を全うしてほしい。</p>
<p>【環境整備:保健・美化】</p> <p>・清掃指導の徹底</p>	<p>教室が綺麗なクラスとそうで無いクラスの差が大きい。”身の回りの整理整頓”が集中して勉強する環境を作り、落ち着いた学校生活を送ることに繋がると思う。全クラス担任に清掃指導の徹底をお願いしたい。</p>
<p>【環境整備:施設・設備】</p> <p>・学校バスの継続と教職員の連携</p>	<p>バスの運行、並びに拡充は大変満足している。ただ、生徒の乗車マナーがしっかりと指導されていない点などを含め、教職員同士の連携を図りながら快適な学校バスの運行を行ってほしい。</p>

第三者評価委員会のまとめ	
<p>【学校運営:校務運営】</p> <p>・特色ある学校づくりを目指す</p>	<p>白樺学園高校における特性は”体育コース”の存在である。部活動では、「上下関係」「挨拶と言葉遣い」等の指導が徹底されており、これらのスキルは社会において重要視されるものである。体育コース指定クラブの更なる強化を期待するとともに、人間性の向上につながる生徒指導を徹底していきながら、特色ある学校づくりを目指していくべきである。進学・教養コースでは、就職率の良さを白樺学園高校の特性として掲げていくことができるよう、進路指導の更なる充実を期待する。</p>
<p>【学習指導】</p> <p>・社会で求められる力を養う教育</p>	<p>社会で求められる力とは、「業務遂行能力」「対人関係能力」「概念化能力」の3つが主に挙げられる。 業務遂行能力…専門知識を習得しながら実践していく能力が求められる。この能力を養う上で、基礎学力定着が必要不可欠であり、各教科担任の教科指導が特に重要となる。 対人関係能力…組織の中で求められる主な能力は、”コミュニケーション能力”と”プレゼンテーション力”である。この能力が養われるよう、各教科担任が工夫した学習活動を展開していく必要がある。また、礼儀を身に着け、人間性を養うような生活指導も重要である。 概念化能力…組織の中で主体的に課題を見つけ、課題の克服に向け共同作業する力が必要である。この”問題解決の能力”が養われるような学習活動を展開するべきである。</p>
<p>【学習指導】</p> <p>・AL型授業の更なる実施</p>	<p>グループワーク等、対話的活動を学習活動に積極的に取り入れることで「コミュニケーション能力」や「プレゼンテーション力」の向上が期待できる。また、「主体的に学ぶ態度」を養うことも期待できるため、上記の項目に挙げた”社会で求められる力を養う教育”をする上で、とても効果的な方法であると考えられる。</p>